

科学に関するメリット・レビューの原則についてのグローバルリサーチカウンシル宣言文 改訂の背景説明（日本語仮訳）

前書き

簡潔に言えば、ピア／メリット・レビューには、研究課題の評価に必要な知識、教育および経験を有する研究者、またはその他の者による研究計画または研究成果の審査が含まれる。その成否は、ピア・レビューは公正かつ公平になされるべきであるという信念をもつ、科学のシステムに属する人々にかかっている。

研究計画の卓越性は、ほとんどすべてのピア／メリット・レビューシステムにおいて審査される研究計画および成果について、また特にグローバルリサーチカウンシル（GRC）参加機関によって実施されているものにおいて、長年にわたり一義的な判断基準とされてきており、科学者の間でもそのように見なされている。

リサーチカウンシルは、公的資金の管理者として、信頼を維持し、申請された研究の審査において卓越性を示す義務があり、ピア／メリット・システムは、可能な限り効果的かつ効率的でなければならない。ピア／メリット・レビューは、公的資金が、科学の進歩を推進し、かつ／または社会的課題に取り組む可能性の最も高いプロジェクトに確実に使われるよう、世界各国のリサーチカウンシルが採用している主要な方法であり続けている。

2012年にGRCは、米国国立科学財団主催によるメリット・レビュー（「ピア・レビュー」とも言う）に関するグローバル・サミットに基づき、科学に関するメリット・レビューの原則についての最初の宣言を承認した¹。

この宣言文は、二つの重要な目的で作成された。第一に、研究助成機関間の国際協力を強化するためのハイレベルな原則に合意を与えること、第二に、新たに助成機関を設立している国々に対して、厳正で透明な審査システムの重要な要素に関するグローバルな状況を示唆することである。

原則についての宣言の改訂

以来、参加機関は2012年のグローバル・サミットに参加した当初の50カ国を越えて拡大した。またGRCは、これまでに6回の年次会合を開催し、幅広いテーマに関する原則につ

いての宣言を承認した。そのうちの多くが、ピア／メリット・レビューのテーマに関連するものである。

世界の科学的様相も、急速な進化を続けている。科学は新しい、予期しなかった知識を創出し、社会的課題に斬新な解決策をもたらし、技術革新の新たな可能性を提供している。こうしたことは、助成機関に対して、課題と新しい機会の両方をもたらしている。公的資金から助成を受けた研究が、経済成長や雇用創出などの、社会的インパクトをもたらすことへの期待が高まるなかで、公的助成機関を含むイノベーションのエコシステムは、変化を担い、促すことが求められている。財源に制約がある中で、インパクトを示す研究への志向は特に強くなっている。

GRC 参加機関は、助成した研究が、その財源を負担する市民の生活と福祉の質の向上に寄与するものであることを示す必要性を認識している。必要に応じて、リサーチカウンシルは、採択決定プロセスに研究の妥当性やインパクトの可能性など付加的な基準を入れることを検討することが多くなっている。同時に、最前線の研究は、未知の社会的課題を解決する知識の基盤に社会が投資することの意味も示している。というのも、そのような知識の基盤を構築する、何世紀にもわたる先端研究がなければ、社会は、私たちが今直面している既知の課題に対して無防備になっていたはずである。それゆえ、インパクトを評価するシステムは、既知の知見に基づいた応用やイノベーションに研究を限定することがないように、十分に長期的なものでなければならない。

変化し続けるこうした研究動向には、分野間研究、分野を超えた研究、多分野に亘る研究、分野融合研究に焦点を絞った研究の増加も含まれ、先入観をなくし、一定のリスクを取ることを促し、分野ごとに行う審査から生じる限界を克服するために、ピア／メリット・レビュープロセスの改善が求められている。少数の専門家によって始められる新しい研究分野が出てきているが、それらは従来の審査システムにおける課題に直面するとともに、分野や場所によっては、審査員の確保や能力が一定ではない。

グローバルな課題への取り組みに、国際協力は欠かせない。その結果、国境を越えたコラボレーションの件数が、増加を続けている。このような合意は、戦略的な科学的連携の構築と、知識や人材の活用を求めた結果、またその目的のために生じている。こうした国境を越えた協力には、いくつかの基本原則を含んだ合意が必要である。さらに、協力関係にあるパートナーの共通の拠り所として、相互の信頼、審査の効率、法的な確実性が重要な前提条件となる。

同時に、ほぼ全部のリサーチカウンシルが、申請件数の増加と採択率の低下に直面し、既存のピア／メリット・レビューシステムの有効性が問われている²。複数の機関による審査員

の需要が増大し、競合することも多く、次第に多くの優秀な科学者が審査に関わることを好まなくなっていることも、この問題と不可分である。

このため、機関のいくつかは、ピア／メリット・レビューの新しいアプローチを探って試行するとともに、申請の質を向上させ、ピア・レビューシステムにかかる需要を抑え、過度な負担がかからないようにするために、申請機関と協力する方策を検討している。機会均等を確保するために、スタッフと審査員に対し、無意識の偏見についてのトレーニングを導入する機関も多い。その他、ピア・レビュープロセスのいっそうの透明化を図るとともに、より良いフィードバックを行い、応募者が審査員のコメントに反論する機会を設けることを検討している機関もある。

技術の進歩は、ピア／メリット・レビューシステムを改革し、効率を高める機会のみならず、それに対する課題ももたらしている。GRCは、参加機関が情報を交換し、前述のような代替策を実施する可能性について議論する場を、引き続き提供していく。

以上のことから、グローバルリサーチカウンシルは、2012年の原則が現状に適応しているかを確認し、世界の研究事業の変化し続ける戦略的な背景や進展する事業の性質を反映したものであり続けることを確実にするために、2018年にピア／メリット・レビューをテーマとして再度取り上げることにした。

2012年にグローバルリサーチカウンシルが支持した原則は、参加機関によってほぼ適切と見なされつつも、グローバルリサーチカウンシルの変化する背景と進展する性質を確実に反映したものとするために更新されてきた。この原則についての宣言と同じように、グローバルリサーチカウンシルは、他の関連テーマについても2012年以降発表を続けている。

注

1. 科学に関するメリット・レビューの原則についての宣言、2012年
https://www.globalresearchcouncil.org/fileadmin//documents/GRC_Publications/gsr_principles-English.pdf
(英文テキストの公式リンク)
2. 「NOW 国際ピア・レビュー会議－主要成果報告書」、アムステルダム、2017年6月29～30日、オランダ科学研究機構
<https://www.nwo.nl/en/policies/nwo+conferences+2017/international+conference/report>
(報告書の公式リンク)